

## 4ヶ月児の泣きに困難感を示す母親の感・情動とその関連要因

著者	田淵 紀子, 炭谷 みどり, 近藤 美佳, 青木 洋子, 竹中 友恵, 広中 啓子, 久司 留理子
雑誌名	日本助産学会誌 = Journal of Japan Academy of Midwifery
巻	15
号	3
ページ	204-205
発行年	2001-01-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/34923">http://hdl.handle.net/2297/34923</a>

doi: 10.3418/jjam.15.3\_200

## 4ヶ月児の泣きに困難感を示す母親の感情・情動とその関連要因

金沢大学医学部保健学科 ○田 淵 紀 子      のいち産婦人科 炭 谷 みどり  
国立山中病院 近 藤 美 佳      七尾看護専門学校 青 木 洋 子  
公立能登病院 竹 中 友 恵      石川県立中央病院 広 中 啓 子  
公立松任石川中央病院 久 司 留 理 子

### I 緒言

昨年我々は、1ヶ月児の泣きに対する母親の困難感の実態と困難感を感じている母親がどのような感情・情動反応を示しているのかを明らかにし、その感情・情動反応に関連する要因と影響力を報告<sup>1)</sup>した。今回は同対象の4ヶ月時点を追跡調査し、1ヶ月時と4ヶ月時で感情・情動反応が異なるのかを明らかにすることを目的とした。

### II 方法

1. 調査期間： 2000年10月～12月

2. 調査対象および調査方法：石川・福井県内の病産院にて出産し、前回1ヶ月時調査に協力してくれた母親のうち4ヶ月時調査に承諾された429名に自己記入式質問紙調査を郵送し、文書により再度調査の承諾を得、記入および郵送による返信を依頼した。

3. 調査内容：

1) 児の泣き声を聞いた時の母親の感情・情動反応：児の泣き声を聞いた時、いとおいと感じる時の情動や負担に感じる時の情動(かわいい、うれしい、何かしてあげたい、イライラする、辛くて泣きたくなる、不安になる等) 20項目について想起してもらい、'1.ほとんど思わない' '2.どちらかといえば思わない' '3.どちらかといえば思う' '4.思う' までの1点から4点までの4段階リッカート尺度により得点化した。合計得点は最小20点～最大80点となり、低いほど非受容的情動傾向を示す。

2) 母親の感情・情動反応に関連する要因：母親の感情・情動反応に関連すると思われる母親の睡眠・授乳状況、サポート状況など18要因43の質問項目を設定し、母親の主観的評価によって表わされるよう4段階のリッカート尺度とし点数化した。

4. 分析方法：母親の感情・情動尺度による得点(以下、情動得点)により、前報で示した困難感を感じている母親(困難群)と平均群、困難なし群の各群間で一元配置分散分析により比較し、有意差検定はFisher's 検定を行った。また情動に関連する要因をPearson's 相関係数から求め、関連する要因の各々の影響力の強さをみるために、有意な相関を認めた要因の各々を独立変数に、情動得点を従属変数として重回帰分析を行った。統計解析はStatView. Ver.4.02Jを用いた。

### III 結果

1. 対象の概要：調査用紙は429部配布し、332名から回収（回収率77.4%）、有効回答は318名（初産婦146名、経産婦172名）であった。

2. 泣き声をきいた時の感情・情動反応の実態：母親全体（n=318）での情動得点の平均は62.6±9.5点であった。困難群の母親（n=48）の情動得点は53.3±7.3点で、困難なし群（n=49）の68.0±8.5点に比べ有意に低く（ $p < .0001$ ）、非受容的情動反応を示した。受容的な情動項目と非受容的な情動項目の得点を困難群、困難なし群で比較した（図1）。困難群においては非受容的情動のいずれの項目も得点が高く、困難なし群は受容的情動得点が高かった。

3. 困難群の母親の情動に関連する要因：困難群の母親の非受容的情動に関連する要因には、「泣きの性質」「寝入りの状況」「生活の変化に対する思い」「育児の見通し」「泣きへの適応」「育児充実感」「育児負担感」（相関係数0.392~0.554,  $p < .05 \sim .0001$ ）があげられ、「寝入りの状況」と「育児の見通し」の2要因で全体の40.5%が説明された。

### IV 考察

今回の分析結果より、困難群の母親は1ヶ月時<sup>1)</sup>と同様に非受容的な情動傾向にあることが明らかとなった。4ヶ月時では1ヶ月時<sup>1)</sup>と比べ、児の泣き声を聞いてもあせったり、泣きたくなったり、どうしていいかわからない、不安になる、という情動は軽減しており泣きに対処できてきている様子が伺われるも、うれしさや幸せ、喜びを感じる受容的な情動が減少していた。非受容的情動に関連していた要因からは、夜間の泣きがいつまで続くのかという見通しのつかなさ、母親の泣きに対する困難感を反映していることが推察された。

### V 結論

- 4ヶ月時において泣きに困難感を感ずる母親は非受容的な情動反応が高かった。
- 困難感を感ずる母親の非受容的情動に関連する要因は「泣きの性質」「寝入りの状況」「生活の変化に対する思い」「育児の見通し」「泣きへの適応」「育児充実感」「育児負担感」であり、「寝入りの状況」と「育児の見通し」が最も影響力をもっていた。

### VI 文献

1) 田淵紀子他, 1ヶ月児の泣きに対する母親の反応—第2報困難さの感情・情動とその関連要因—, 日本助産学会誌, 14(3), 162-163, 2001.

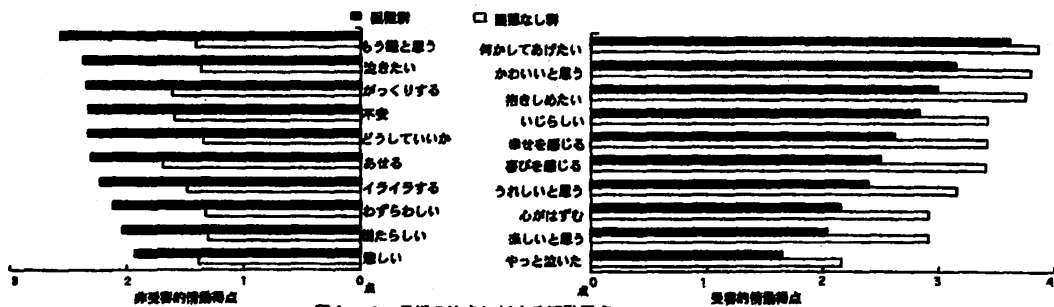


図1. 4ヶ月児の泣きに対する情動得点